

# 平成26年度小松島市事務事業評価シート

## ■事業の位置づけ（基本事項）

				整理番号	7	-	3	-	8
事務事業名	新中学校建設事業				担当課係	教育政策課			
総合計画上の位置付け	大項目	4. 「人が輝く」			記入担当者				
	中項目	③生涯を通して学べる環境づくり			内線等				
	小項目	2. 学校教育の充実			E-mail				
事業の実施主体	市（委託・補助事業含む）				事業区分	臨時事業			
事業予算費目	款	10	教育費	項	3	中学校費			
	目	4	新中学校建設工事	事業	1	新中学校建設事業			
開始年度	平成	25	年度	根拠法令・要綱等	学校教育法				

## ■事務事業の概要（実施内容）

事業の対象	(誰の、何のために事業を実施するのか) 立江中学校・坂野中学校区の児童及び生徒
事業の目的 (意図)	(事業実施によってどういう状態にしたいのか) 既に校舎の更新を終えている小松島中学校との施設や環境の格差をなくし、市内の中学生によりよい教育環境を提供する。
事業の内容 (内容・手法等)	(どういった仕事の内容で、どのような手法・手順で実施しているか) 立江中学校・坂野中学校区を概ね包括する新中学校を建設する。平成26年度前期に完了させた設計を元に、中期には総合評価方式により工事業者を決定し、工事請負契約を締結した。併せて、給食室への調理器具設置に備えて、事前に給食調理器具の納入業者を決定した。 今後も順次発注の準備を行い、平成28年4月開校を目標に整備を進めていく。 また、防災機能を有することに加え、地域住民が避難した状態においても、学校運営を可能にする対策を盛り込んでいる。
事業の背景 (経緯等)	(事業開始の背景やこれまでの経緯) 小松島市学校再編計画において、中学校は、小松島中学校と立江中学校及び坂野中学校の校区を概ね包括する新中学校の2校体制とすることとされ、これを具現化するため、平成28年度開校を目標に校舎新築を含む新中学校建設事業に着手した。 また、再編計画では、地域の防災拠点としての機能を備えることが求められており、これを盛り込んだ施設とした。

## ■事務事業の業績・推移（目標・実績）

成果指標	指標名		指標の説明				指標化できない成果			
	耐震性のある校舎を有する市立中学校数		普通教室棟を含む校舎の耐震性を確保（Is値0.7以上）した校舎を有する市立中学校数							
	単位		H25	H26	H27	H28		将来目標 (年度：平成)		
校	目標		2	2	2	2	施設面における学校の格差をなくし、生徒数的にも1学年複数学級を確保することで、生徒が安心して安全に学ぶことができる教育環境の整備を図る。			
	実績		1	1						
	達成度									
活動実績・参考となる指標	指標名		単位		H25	H26	H27	H28	指標の説明	
	委託料等	円	計画							
			実績			1,846,440				測量等委託料他
	工事請負費	円	計画							校舎前払金50,000千円 水路前払金27,051千円
			実績			77,051,000				
	公有財産購入費	円	計画							テニスコート用地 7筆 4,912.49㎡
			実績			51,089,896				
	負担金	円	計画							水道加入金
実績					933,120					

## ■事務事業に係るコストの業績（目標・実績）

(単位：円)

全体コスト(円)	関連事業費	A	直接事業費	25年度決算	26年度決算	27年度決算	26年度予算
				0	130,920,456	0	609,276,000
財源内訳	B	財源	国県支出金		15,000,000		
			地方債		30,100,000		
			利用者負担				
			一般財源		85,820,456		
			人件費 ①×②	0	7,091,228	0	
職員平均人件費① 従事した割合②/人			14,182,455				
			0.50				
A + B			0	138,011,684	0		
単位コスト	活動指標の説明					備考	
	活動指標1単位当たりコスト					平成25年4月1日現在 人口40,733人	
	市民一人あたりのコスト		0	3,422		平成26年4月1日現在 人口40,333人	

■事業を取り巻く環境

<p><b>国・県・他団体の動向や環境変化と今後の予測</b></p>	<p>(社会状況、法改正、規制緩和、周辺の状況等や今後の予測) 少子化に歯止めが掛からない現状では、教育の質の確保と学校運営に係る経費の効率化を図るため、全国的に学校の統廃合が進んでくものとみられる。一方、南海トラフを震源とするM8～9クラスの巨大地震が今後30年以内に70%程度の確率で発生することが、懸念されている。こうしたことから、学校施設には児童・生徒に対する安全・安心の確保は元より、地域住民への防災機能の確保がより一層求められるであろう。</p>
<p><b>事業に対する住民の意見</b></p>	<p>(意識調査・議会質疑等、事業に対する期待・要望・苦情など) 学校再編計画策定の際に、在校生の保護者を対象にアンケートを実施したところ、複数学級で運営される学校像を求めていることが判明した。このことは、立江・坂野両中学校を統合する理由の一つとなっている。 また、新中学校建設地周辺には高層建築が少ないため、津波発生時の有効な避難施設として地域住民から期待されている。</p>

■項目別評価・今後の課題

評価項目	評価結果 (該当にチェック)	判断理由・評価コメント (具体的に記入すること)
<p><b>必要性</b> (市民ニーズ)</p>	<p><input type="radio"/> ① 必要性が高い <input type="checkbox"/> ② どちらかといえば必要性がある <input type="checkbox"/> ③ 必要性が低い <input type="checkbox"/> ④ 必要性がない</p>	<p>文部科学省の打ち出した、平成27年度末までのできるだけ早い時期に完了させるという施設整備基本方針に基づき、学校施設の耐震化を推進してきた。立江中学校・坂野中学校校舎については、新中学校を建設することにより耐震化が完了となるため必要性は高い。</p>
<p><b>妥当性</b> (市で行わなければならないか)</p>	<p><input type="radio"/> ① 市が行わないといけない <input type="checkbox"/> ② どちらかといえば市で実施 <input type="checkbox"/> ③ 必然性が低い <input type="checkbox"/> ④ 必然性がない</p>	<p>市立中学校であるため、市が行わなければならない。</p>
<p><b>効率性</b> (事業の手法は効率よいが、コスト削減の余地はないか)</p>	<p><input type="checkbox"/> ① 効率的である <input type="radio"/> ② どちらかといえば効率的 <input type="checkbox"/> ③ どちらかといえば非効率的 <input type="checkbox"/> ④ 非効率的</p>	<p>設計業務委託先はプロポーザル方式で、校舎、その他関連の建設工事は総合評価方式で実施するため、最低限の費用での施工とはならないが、よりよい学校を建設するには的確な方法であると考え。</p>
<p><b>緊急性</b> (他事業に優先し、実施する必要があるか)</p>	<p><input type="radio"/> ① 緊急性が高い <input type="checkbox"/> ② 比較的緊急性がある <input type="checkbox"/> ③ 緊急性が低い <input type="checkbox"/> ④ 緊急性はない</p>	<p>平成27年度末までに耐震化を完了させるという文部科学省の施設整備基本方針に基づくため、また児童・生徒の安全性の確保のため、緊急に実施する必要がある。</p>
<p><b>成果</b> (目的の達成状況)</p>	<p><input type="radio"/> ① 成果が上がっている <input type="checkbox"/> ② どちらかといえば上がっている <input type="checkbox"/> ③ どちらかといえば上がっていない <input type="checkbox"/> ④ 成果は上がっていない</p>	<p>平成25年度から新中学校の設計業務を開始し、設計変更により、設計業務の完成が平成26年度となった。しかし、平成28年度4月の開校に向けて、校舎新築工事及び関連工事の発注・施工は着実に進捗している。</p>
<p><b>今後の課題</b></p>	<p>平成26年8月には校舎新築工事の工事請負契約を締結し、工事を進めている。 今後は外構工事等の関連工事を速やかに発注し、平成28年4月開校を実現させなければならない。</p>	

■一次評価 (評価点は目安とし、総合的な評価をすること)

<p><b>評価</b></p> <p>2</p>	<p>事務事業の方向性</p>	1 拡 充 す る 80 点 以上	評価点による	<p>判定に 至った理由</p>	<p>この事業は、①学校施設の耐震化期限が27年度末とされていること、②新中学校の開校が平成28年度に予定していること、この2つの条件から平成27年度末までの完成が必須となっている。 よって、平成28年4月の開校を実現するため、総力を挙げて取り組まなければならない。</p>
		2 現状のまま継続する 60～79点	判定		
		3 改善・効率化し継続 50～59点	評価点 93		
		4 見直しの上縮小する 40～49点	1		
		5 終期設定し終了 30～39点			
		6 休 止 20～29点			
		7 廃 止 19点以下			

■改善・効率化・見直しの方向性 ※一次評価の判定が3・4の時は、必ず記入すること。

<p>【具体的な改善等取組内容 (方向性・対象・手段等について記述)】</p>
---

■二次評価 (所管担当の一次評価を、総合評価し判定すること)

<p><b>評価</b></p> <p>2</p>	<p>事務事業の方向性</p>	1 拡 充 す る	<p>判定説明</p>	<p>立江中学校・坂野中学校区を概ね包括した新中学校の建設は、既に校舎の更新を終えた小松島中学校との教育環境の格差をなくし、安全な施設・設備の中で生徒が学べるようにするために必要な事業である。 また、南海トラフを震源とする巨大地震の発生確率が高まる中、地域住民の津波避難に対する不安を軽減する施設としても重要である。</p>
		2 現状のまま継続する		
		3 改善・効率化し継続		
		4 見直しの上縮小する		
		5 終期設定し終了		
		6 休 止		
		7 廃 止		